

2/18 朝日

医師不足 36年に5000人超

最悪 34道県で3万人超

厚生労働省が二〇三六年時点での各都道府県で必要とされる医師数を推計する。最も医師の確保が進んだ場合でも、十二道県で計五千三百二十三人の不足が見込まれることが十七日、関係者への取材で分かった。医師確保が進まない場合、必要な人数を満たせない三十四道県の不足分を積み上げると、三万人超となる。

厚労省は二六年度までに医師が都市部に集中する偏り、在問題の解消を目指している。今回の集計結果を十八日の有識者検討会に報告

る。東京や大阪など十三都府県では、その場合でも必要人数を上回る医師が確保できると予測されており、大都市圏から不足地域に医師を配分する施策が急務となる。

厚労省は二六年度までに医師が都市部に集中する偏り、医師確保が進まなかつた場合、福井県から流入を考慮せざるを得ない地域に関しては、地元で一定期間勤務することを義務付ける大学医学部の「地域枠」を優先的に配分するなど、対策を強化したいと考えた。検討会では、医師が集中している現状の度合いを示す「医師偏在指標」を、都道府県が複数の市町村などをまとめて設定する「二次医療圏」ことに提示。都道府県など三次医療圏単位でも示し、医師不足が顕著な岩手、新潟、青森など十五県は「医師少數三次医療圏」とする方針。

2036年時点の不足医師数予測(▲=不足。単位は人)

	…医師確保が進んだ場合		…医師確保が進まなかつた場合	
	[不足分合計] 12道県	5323人	[不足分合計] 34道県	34911人
北海道	▲188	▲1571	石川	911
青森	▲439	▲1225	福井	503
岩手	▲474	▲1361	山梨	325
宮城	1142	▲604	長野	▲87
秋田	▲204	▲646	岐阜	542
山形	32	▲653	静岡	▲402
福島	▲804	▲3500	愛知	1357
茨城	202	▲2376	三重	391
栃木	98	▲1700	滋賀	541
群馬	▲51	▲1837	京都	4006
埼玉	▲1044	▲5040	大阪	7703
千葉	636	▲2302	兵庫	3642
東京	26645	13295	奈良	1236
神奈川	5009	▲260	和歌山	1093
新潟	▲1534	▲1969	鳥取	216
富山	222	▲432	島根	168
			岡山	2232
			広島	849
			山口	▲88
			徳島	649
			香川	476
			愛媛	317
			高知	452
			福岡	5111
			佐賀	820
			長崎	716
			熊本	1671
			大分	573
			宮崎	▲8
			鹿児島	762
			沖縄	1021
				99

※厚生労働省による

をまとめて設定する「二次医療圏」ことに提示。都道府県など三次医療圏単位でも示し、医師不足が顕著な岩手、新潟、青森など十五県は「医師少數三次医療圏」とする方針。

今回の推計は、患者の年齢や性別による受診率や配置されている医師の性や年齢、将来の人口変化などを考慮し、三六年時点で必要とされる医師数を算出。二次医療圏ごとでは、全国三百三十五カ所のうち約二百三十カ所で医師が不足する結果となった。

都道府県ごとの推計をみると、医師確保が最も進んだ場合でも、新潟で千五百三十四人、埼玉で千四十四人、福島で八百四人の不足が生じる。

医師確保が進まなかつた場合は、福井県で百六十四人、埼玉で五千四十人、福島で三千五百人、茨城で二千三百七十六人と不足人員がさらに増えると推計。必要人数を満たせなかつた三十四道県の不足分を、他の都道府県からの流入を考慮せず、単純に積み上げると、三万四千九百十一人とな

る。一方、その場合でも、東京で一万三千一百九十五人、大阪で四千三百九十三人が必要な医師数を上回るこれが見込まれている。